

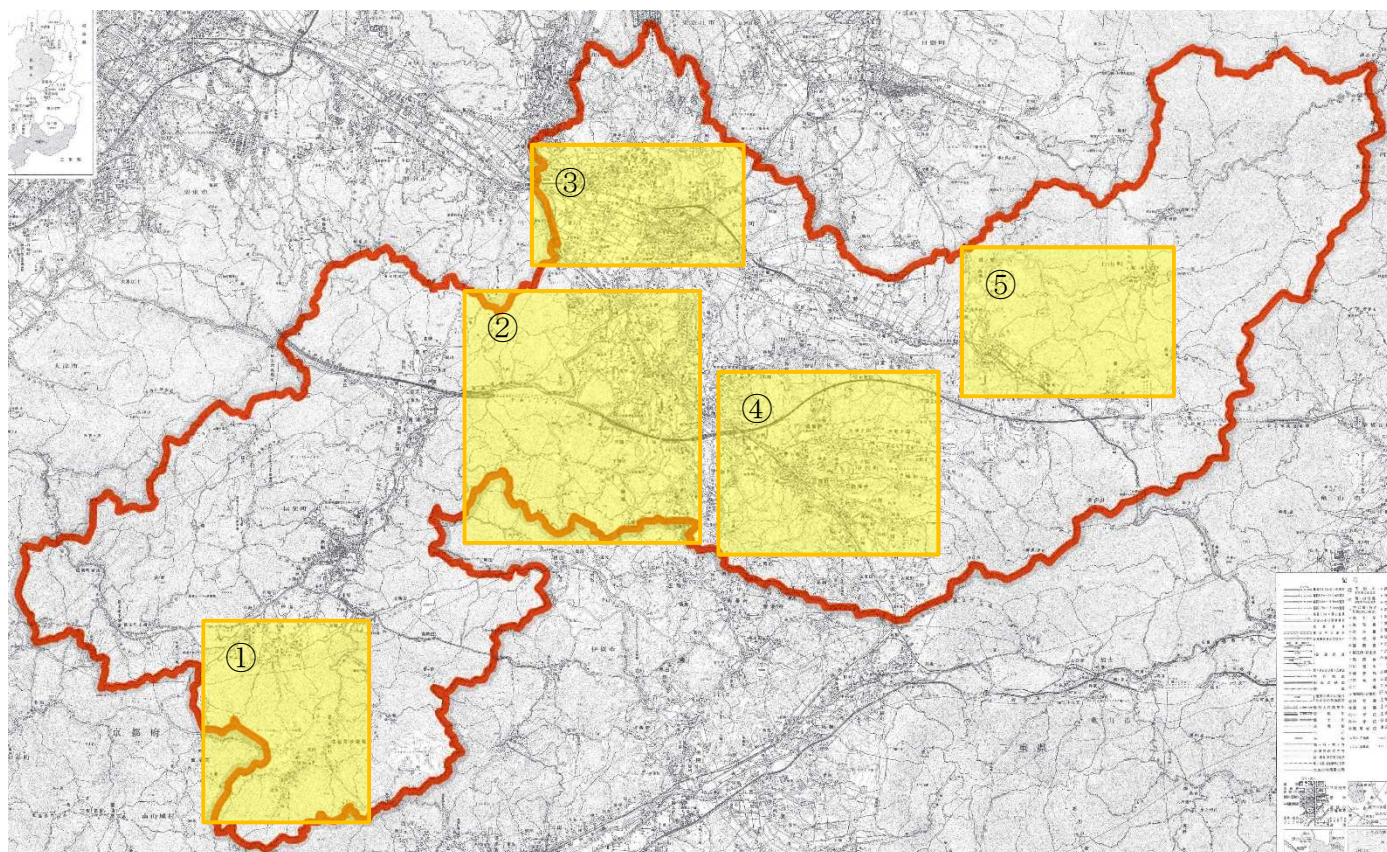


① 申請者	◎滋賀県甲賀市 三重県伊賀市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。忍者の名は広く知られていても、真の姿を知る人は少ない。伊賀・甲賀は忍者の発祥地として知られ、その代表格とされてきた。</p> <p>複雑な地形を利用して数多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団であり、伊賀・甲賀流忍術は、豊かな宗教文化や多彩な生活の中から育まれた。忍びの里に残る数々の足跡を訪ねれば、リアルな忍者の姿が浮かび上がる。</p> <p>伊賀・甲賀、そこには、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今も息づいている。</p>			
			
翔ぶ忍者		伊賀・甲賀流忍術を集大成した秘伝書 ばんせんしゅうかい 『萬川集海』	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	甲賀市産業経済部 観光企画推進室 藤村加代子 甲賀市教育委員会 歴史文化財課 長峰 透		
電 話	観光企画推進室 0748-65-0708 歴史文化財課 0748-86-8026	FAX	観光企画推進室 0748-63-4087 歴史文化財課 0748-86-8216
E-mail	観光企画推進室 koka10352000@city.koka.lg.jp 歴史文化財課 koka30109000@city.koka.lg.jp		
住 所	観光企画推進室 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地 歴史文化財課 滋賀県甲賀市甲南町野田 810 番地		

甲賀市全体図

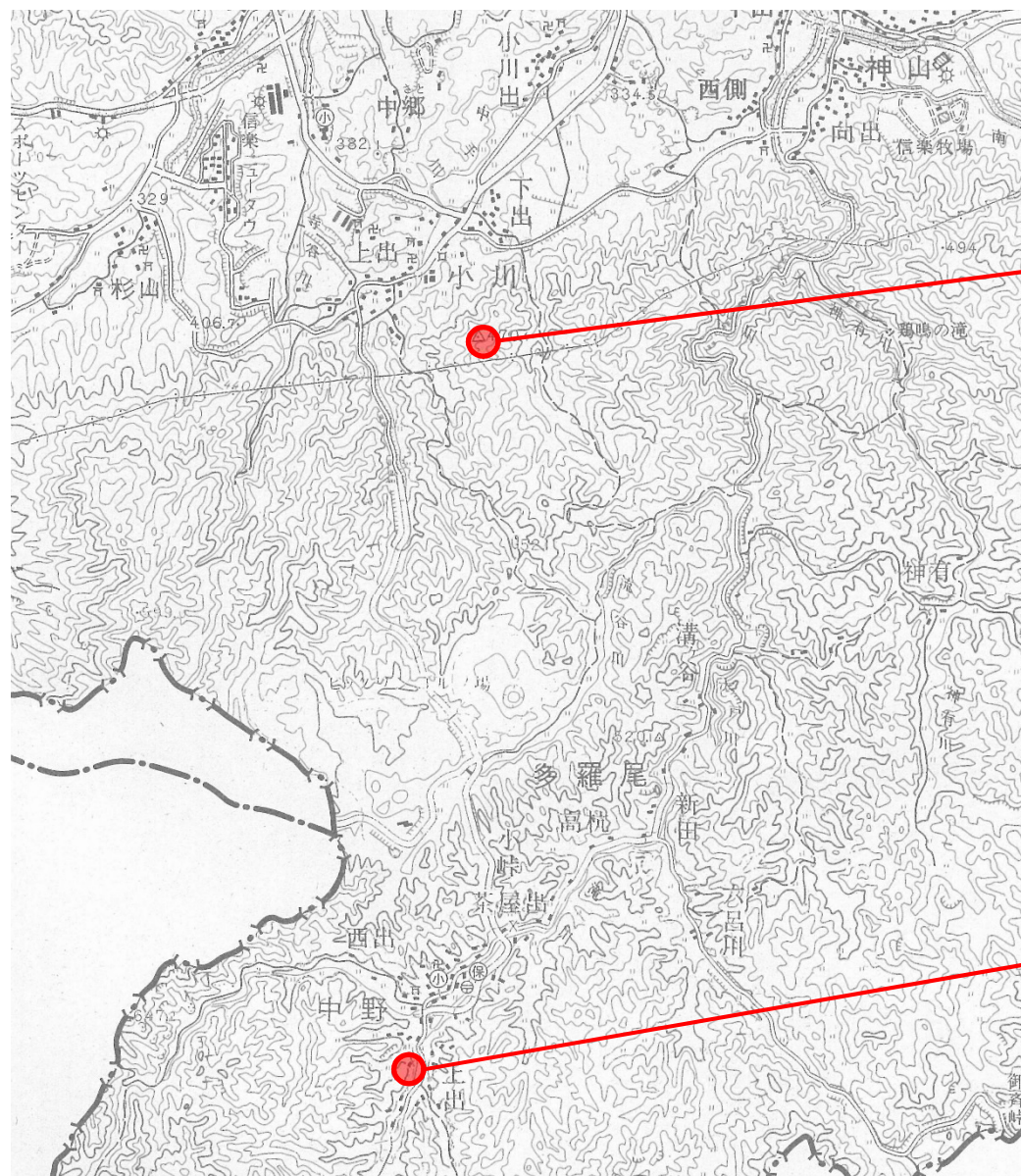


①信楽地区

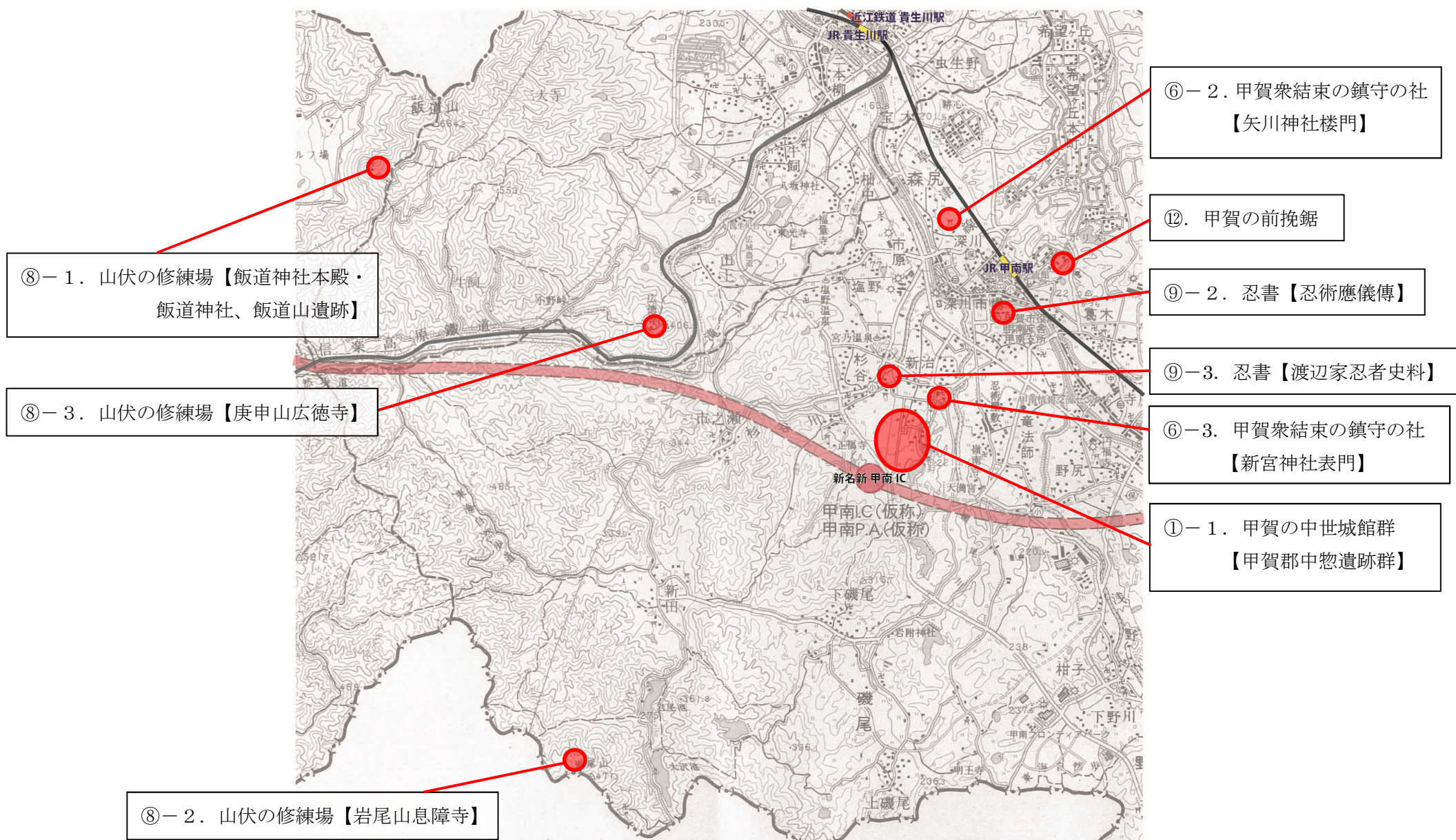
②・③・④ 水口・甲賀・甲南地区

⑤土山地区

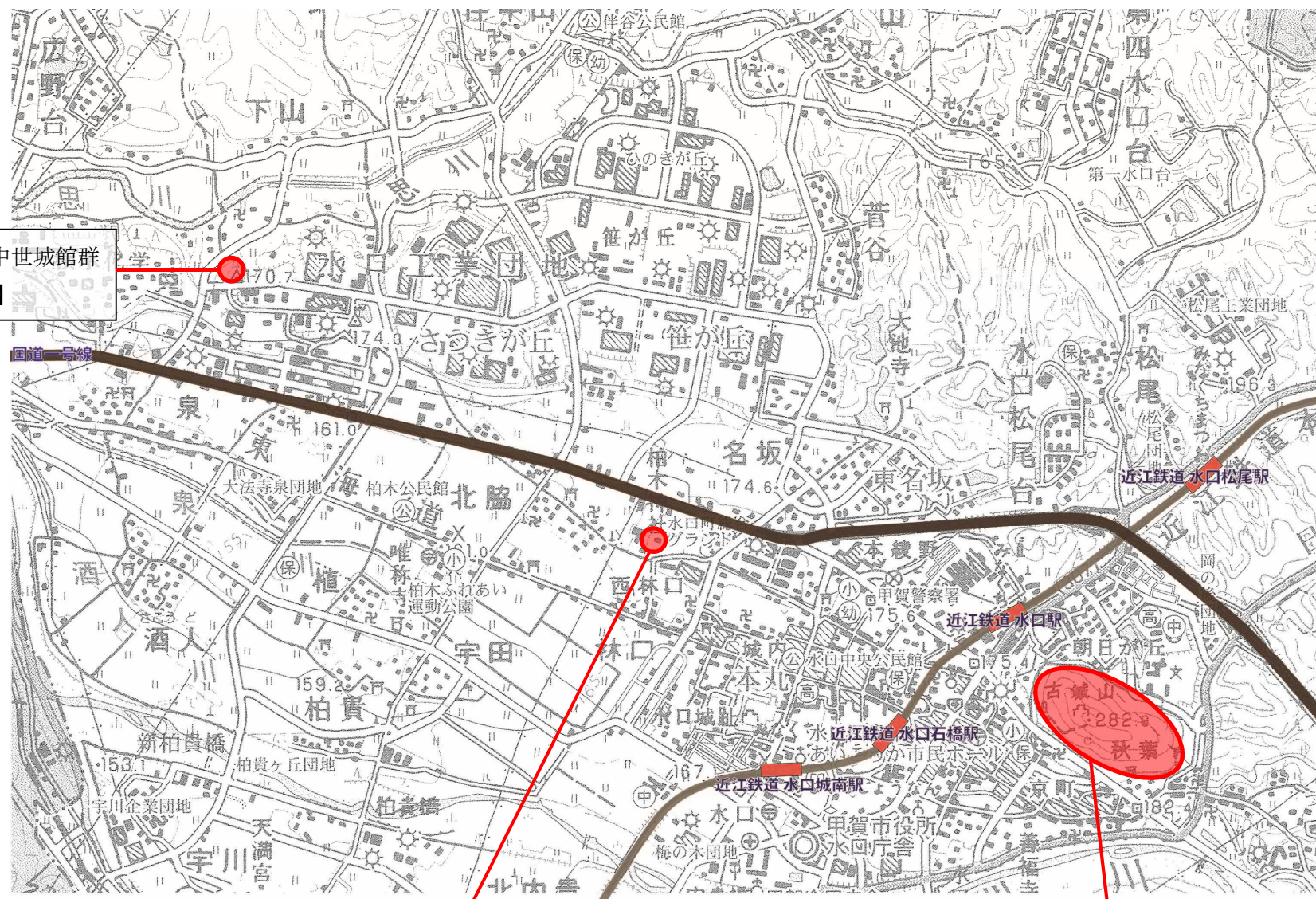
分布図① 【信楽地区】



分布図②【甲南・水口・信楽地区】



分布図③ 【水口地区】

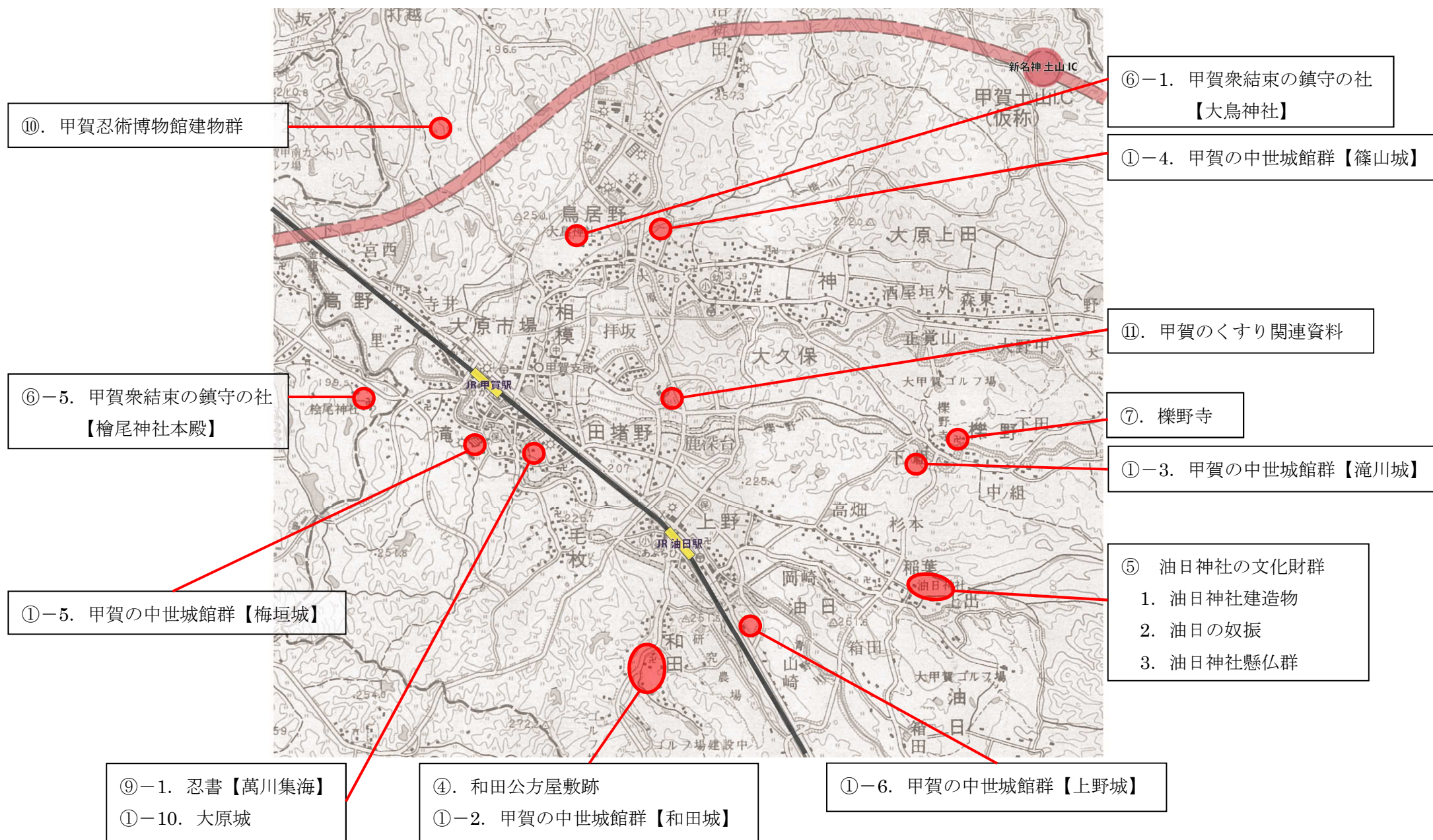


①－⑨. 甲賀の中世城館群
【下山城】

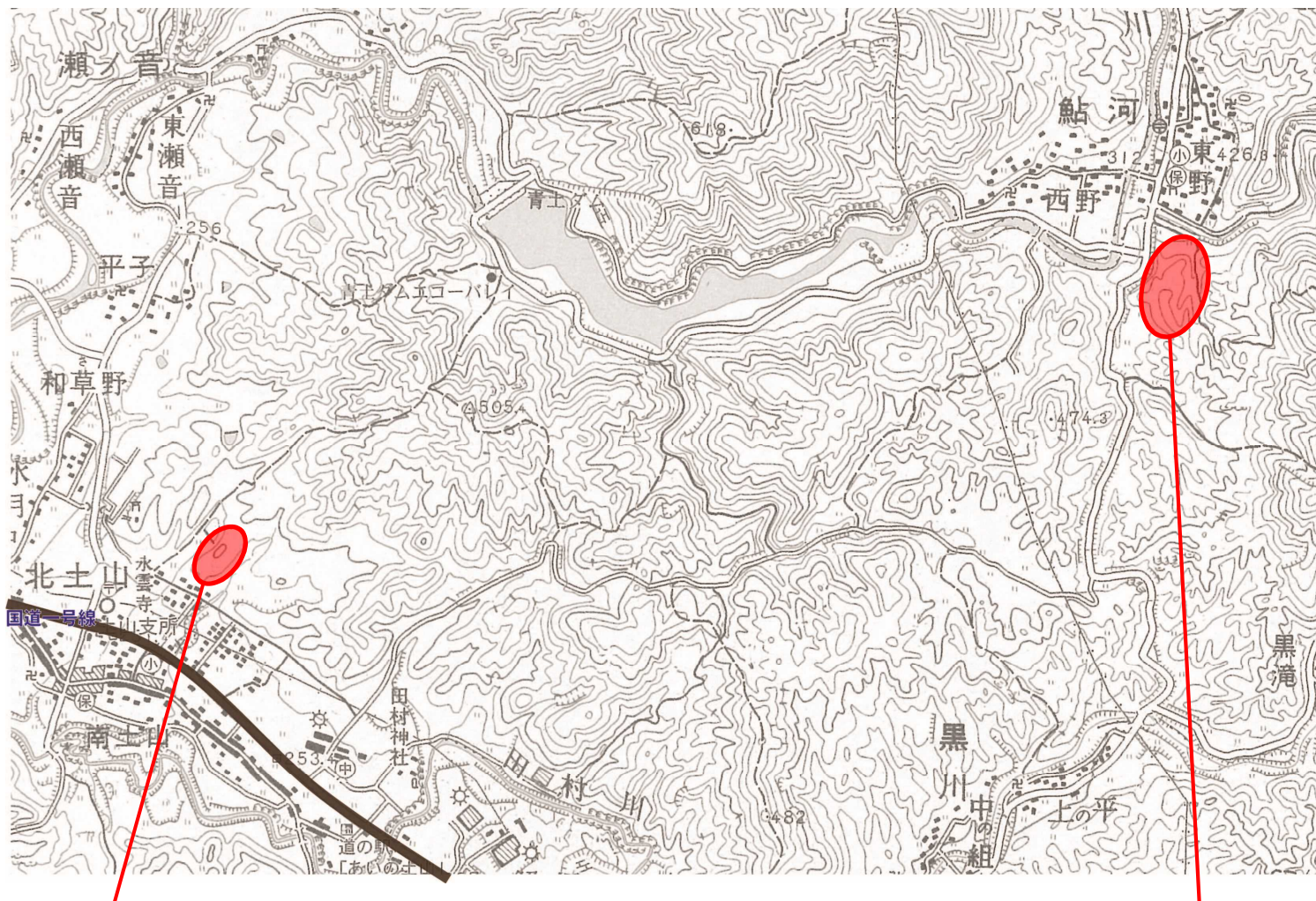
⑥-4. 甲賀衆結束の鎮守の社
【柏木神社】

③. 水口岡山城跡

分布図④【甲賀・甲南地区】

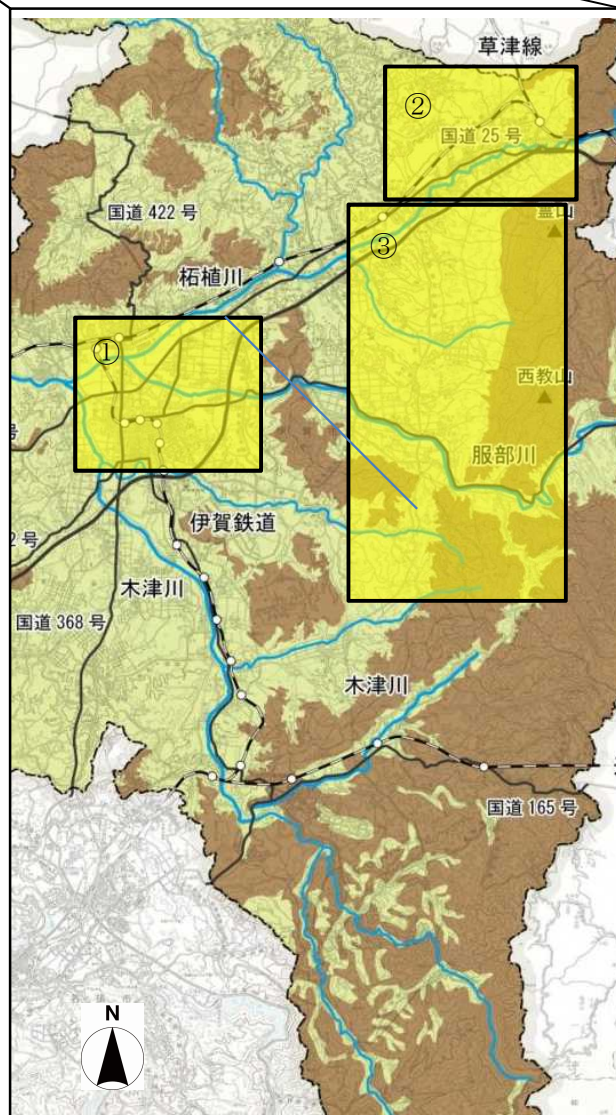
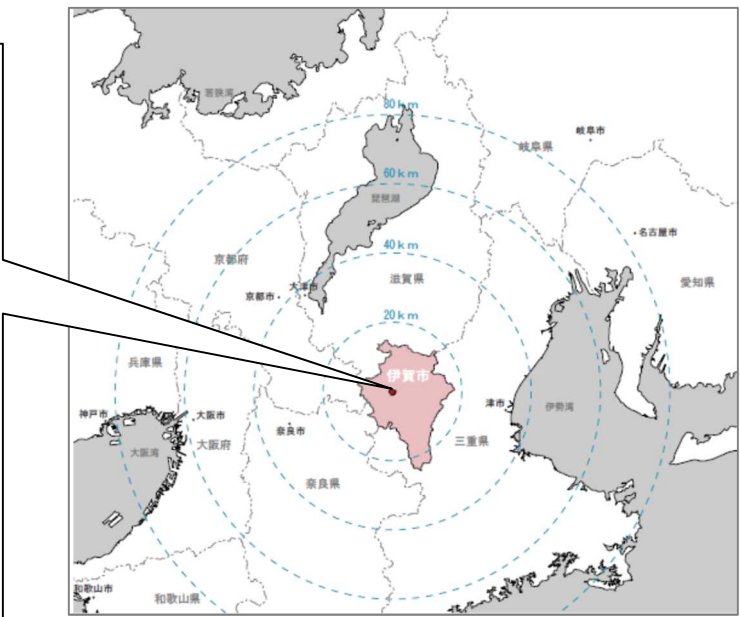


分布図⑤【土山地区】

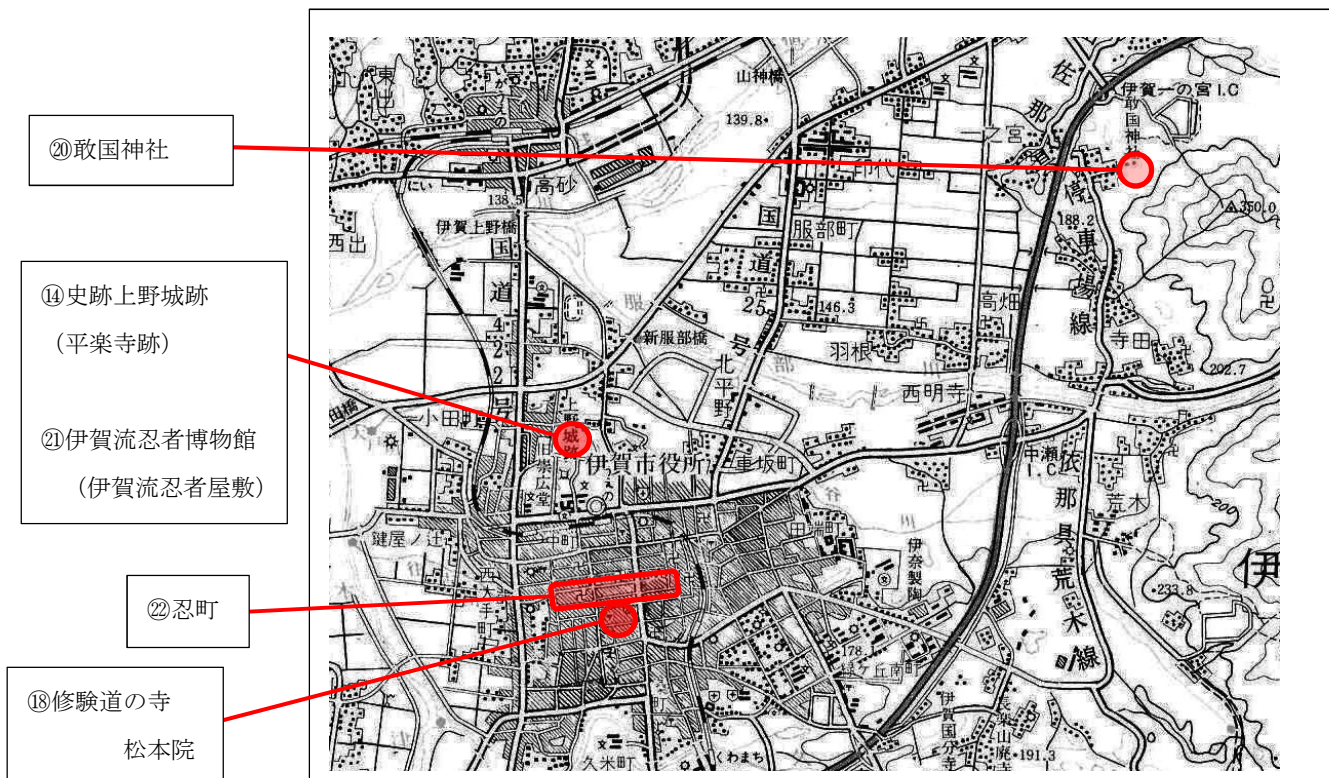


①-7. 甲賀の中世城館群【土山城】

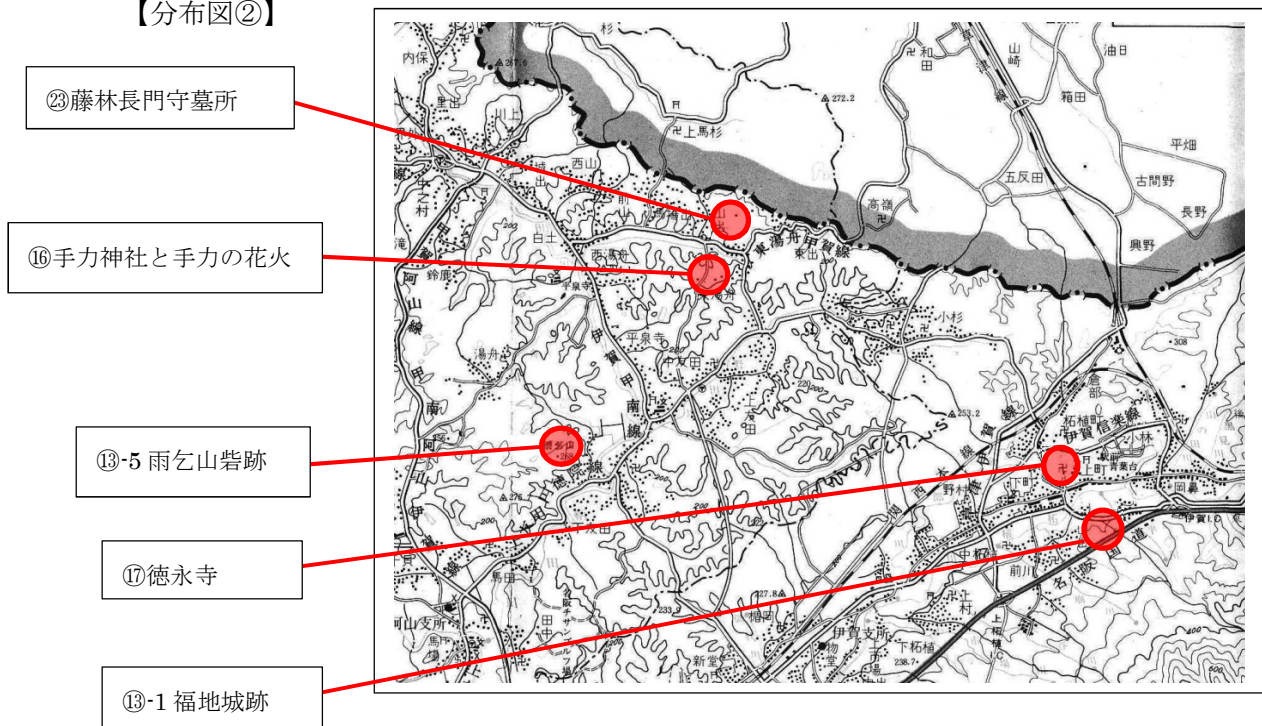
①-8. 甲賀の中世城館群【黒川氏城】



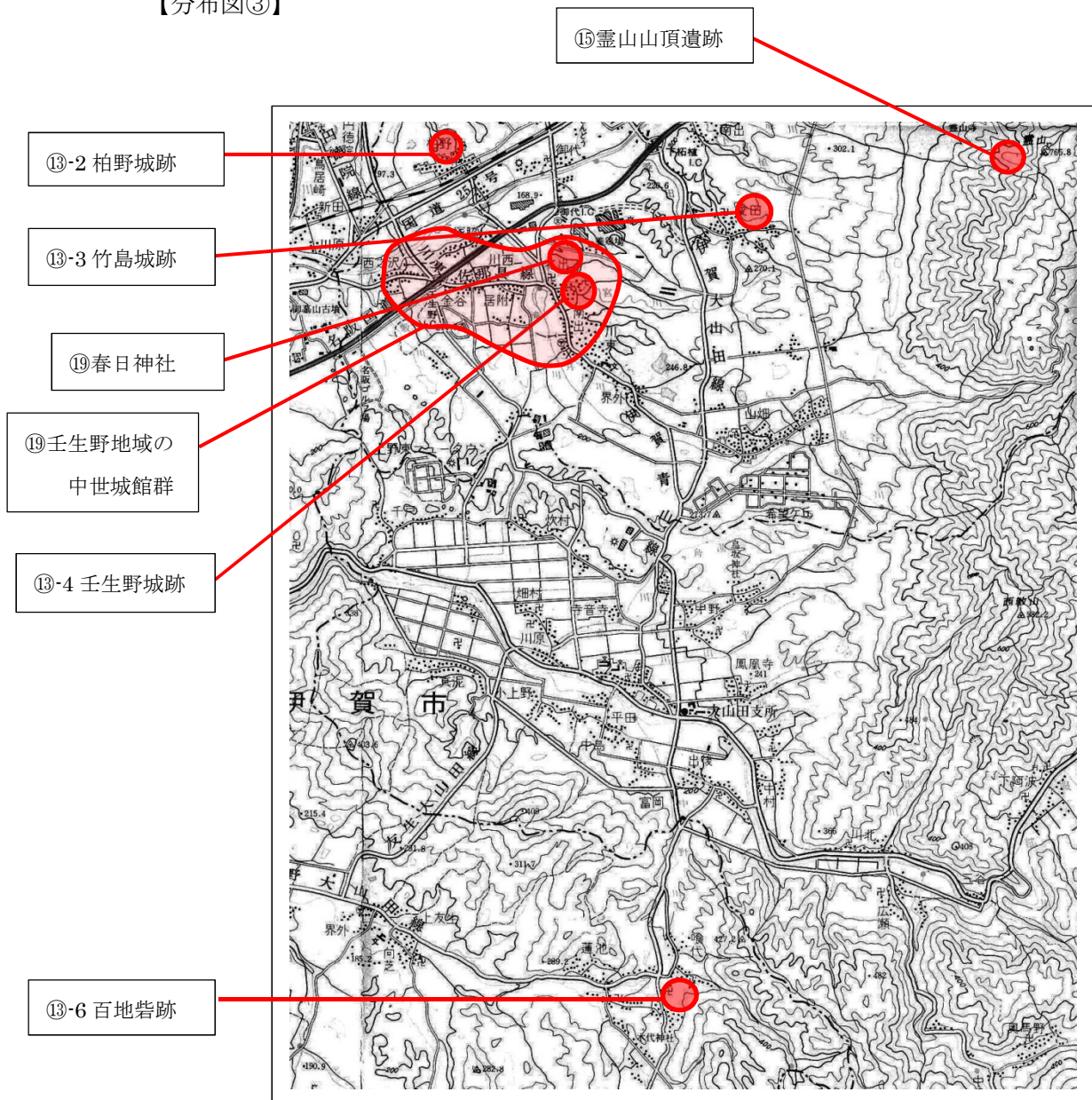
【分布図①】



【分布図②】



【分布図③】



ストーリー

1. リアルな忍者を求めて

忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。江戸時代以降、歌舞伎や小説の世界で、不思議な術を使って悪者を討つというストーリーで人気を博してきた。一方、イエズス会が編纂した「日葡辞書」には、忍者は「Xinobi」(シノビ)として記載され、17世紀初頭には海外の人々にまで伝わっており、そこには「戦争の際に、状況を探るために、夜、または、こっそりと隠れて城内へよじ上ったり陣営内に入ったりする間諜^{かんちよう}」として紹介されている。

各地の大名に仕え、敵情を探り、奇襲戦にと戦国の影で活躍した忍者たち。忍者の名は広く知られていても、今日なお謎に満ちており、真の姿を知る人は少ない。今、求められているのは忍者の本当の姿、すなわち「リアル忍者」である。

2. 忍者発祥の地、伊賀、甲賀

三重県伊賀地方と滋賀県甲賀地方は忍者の発祥地として名高く、江戸時代の地誌「近江輿地志略^{おうみよちしりやく}」

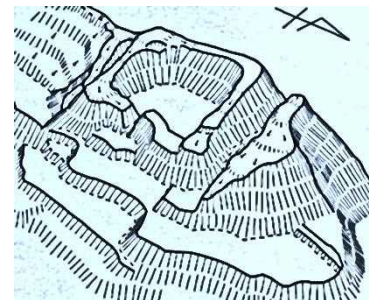


忍者の里の複雑な地形

には「忍者(しのびのもの)伊賀甲賀と号し忍者という」とあり、忍者は「伊賀、甲賀の者」が代表格とされてきた。「甲伊一国」とも言われ、なだらかな丘陵を境に南北に隣り合い、今も交流が盛んである。京都や奈良などにも程近いことから情報が入りやすく、東に鈴鹿山脈、西に笠置山地に囲まれた山間の地は、時の権力者の恰好の亡命地であり、また大和街道や東海道が通る東西交通の要衝、そして軍事的にも重要な地域でもあった。伊賀、甲賀地方からどうして忍者や忍術が生まれたのか、その答えは忍びの里を訪ね歩くと自ずと見つけることができる。

3. 丘陵に囲まれた城館の宝庫

忍者の里を歩くと、奇妙な風景に包まれる。小高い丘陵に囲まれた風景が行けども行けども続き、迷路のような奥地に誘い込まれる。丘陵の裾野に張り付くように集落が点在し、家々は細かな谷に遮られて見えにく、隠れ里と呼ばれるのに相応しい。上空から見ると細かく枝分れしたような複雑な谷地形が広がっている。こうした独特の地形は今から300万年前の古琵琶湖層という粘土層が侵食されて出来上がった。見晴らしのよい丘陵の先端や谷の入口には必ずといっていいほど城跡があり、侵入者は谷の両側から攻撃を仕掛けられると、袋のねずみのように退路を遮れた。守りが強く、攻め難い、これが忍者の里である。



土造りの城館

城といっても石垣はなく、土を盛り上げ一辺約50m程の土塁で四方を囲んだ館タイプの城館で、土塁の高さは優に5mを越え異様に高い。その数は伊賀、甲賀で800箇所にも及び、日本有数の城館密集地帯である。なぜこのような姿になったのか、それは忍者の組織に求めることができる。

4. 地域の平和を守った忍者たち

忍者の実像は「伊賀衆」「甲賀衆」と呼ばれた「地侍」たちだった。戦国時代、この地域からは大きな力を持った大名が現れず、自らの地を自らの力で治める必要から自治が発達し、お互いに連携をして地域を守っていた。地侍たちは一国、一郡規模で連合し合い、そうした自治組織を「伊賀惣国一揆^{いがかんちゆうき}」そして「甲賀郡中惣^{こうかぐんちゆうそう}」と呼び、互いに同盟し合って仲が良かった。一族の結束は強く、「一味同心」に団結し、「諸事談合」して、時には多数決さえ用いて物事を決めており、「みんなで集まり、話し合いで決める」こと、これが忍者の里の「掟」だった。封建制が強まり、下克上の嵐が吹き荒れる戦国時代にあって、一人の領主による力の支配ではなく、皆で力を合わせて地域の平和を守ってきた姿は、テレビやアニメで描かれる非情な世界とはまったく異なる。



甲賀衆結束の場、油日神社

それが城館の分布に現れている。ここでは突出した権力がないため特別に大きな城はなく、また同種の地侍たちが集まっていたため、同じ形、同じ大きさの城館が狭い地域にひしめき合う世界が出現した。しかし天下統一を目指した織田信長や豊臣秀吉などの強大な権力の出現とともに、こうした地侍の自治組織も終焉を迎える。

一方、戦国時代を通じて忍びの技術は重宝され、各地の大名に仕え活躍していた。中でも天正 10 年(1582)の本能寺の変後、堺にいた徳川家康が本国三河に帰る最短ルートとしてこの地を駆け抜けた際、伊賀者、甲賀者が家康を護衛し、その活躍が今日まで「神君伊賀越え」として語り継がれている。

5. 多彩な生活文化を育んだ伊賀・甲賀

忍者の生活を見てみよう。彼らは平時は農耕に勤しんだ。伊賀の菊岡如幻きくおかじよげんによる「伊乱記」いらんきによれば「午前中は家業に精励し、午後には寺に集まって軍術、兵道の稽古をした」とある。いざ戦となれば村に鐘が鳴り響き、お百姓さんからお坊さんに至るまで、それぞれ得意の武器を持って立ち上がれと「掟」では定めており、村人たちが総動員で戦った。



山伏たちによる護摩修行

この地域には農業以外にも多彩な生業が芽生えた。奈良時代、東大寺建立に用材を供給した山である伊賀杣そま、甲賀杣そまが開かれ、杣人そまびと(木こり)たちは大木を切り、木から木へと飛び移って木材を生産した。山には山岳宗教が栄え、山伏たちは山稜で厳しい修行を積む一方、薬草の知識を身に付け、全国各地にお札を配り薬を授けて廻っていた。自然豊かな山野で体を鍛え、諸国を巡り歩くことで情報に通じた。忍者の人並み外れた跳躍術や、走り方、隠れ方、薬の作り方、精神統一の法など、この地に生きる人々の日々の暮らしや、生業の知識、技術が忍者の技として活かされており、忍術は決して荒唐無稽な術ではなかった。

延宝 4 年(1676)に藤林保武ふじばやしやすたけが著した忍術秘伝書『萬川集海』ばんせんしゅうかいにも、火薬や薬などの化学、山伏が育んだ呪術や天文学、様々な忍び込む術が集大成されているが、伊賀、甲賀が育んできた先進的な技術や宗教文化、そして人々の多彩な生活があったからこそ、そこに忍術が生まれたのである。

6. 今に残る忍者の面影

伊賀、甲賀を取り巻く山々に登ってみよう。そこは山岳仏教の霊地であり、今も苔むす石垣に囲まれた寺院跡が残る。伊賀の霊山には数多くの中世の石造物が佇み、近江屈指の修験霊場、甲賀の飯道山では今も山伏たちが唱える読経が響き渡る。巨岩、奇石が屹立した山伏の行場を巡ると、自然を相手に心身練磨をした忍者の修行を体験することができ、呪文と印を結ぶ山伏の姿や、もくもくと焚き上げる護摩の煙に、現代に生きるリアルな忍者が感じられる。

里に下りれば、平安時代の数々の仏像に天台密教が栄えた証を見ることができ、厳かな宗教文化に触れれば、忍者に感じる神秘性の背景が理解できるだろう。

村々の鎮守の社は忍者たちの合議の場であった。伊賀の春日神社あえくにや敢国神社は祭礼行事を通じて結束を固めた所で、その周辺に彼らの屋敷が点在している。甲賀の油日神社あぶらひに残る廻廊は寄合いの場で、境内で 5 年に一度、繰り広げられる華やかな奴振やつこふりに、かつての侍衆が集まり氏神にお参りした名残を見ることができる。

里山に入ると土造りの城館が今もそのままの姿で残っており、戦国時代を彷彿させる緊迫した世界が現れる。集落の屋敷は四角く高い土塁で

囲まれ、今なお忍者の子孫たちの暮らしがある。伊賀、甲賀の忍者が最も得意とした火薬や薬は、火術を得意とした伊賀藤林氏の氏神、手力神社で打ち上げる花火にその面影がみられ、甲賀では配置売薬に引き継がれ、薬の町として一大産業に発展しており、忍者の知恵が今日の暮らしに溶け込んでいる。

エンターテインメントの世界では人々の想像力を掻き立て、多くのスーパー忍者を生み出したが、戦国の世とは程遠い穏やかな風景のなかに、忍者が活躍した痕跡は確かに息づいている。

忍者発祥の地、伊賀、甲賀。忍びの里を訪ねれば忍者の真の姿が浮かび上がるだろう。



伊賀手力神社の花火

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	甲賀の中世城館群	国指定史跡 (1 甲賀郡中惣遺跡群) 市指定史跡 (2 和田城 3 滝川城 4 篠山城 5 梅垣城 6 上野城) 未指定 (7 土山城 8 黒川氏城 9 下山城 10 大原城)	戦国時代の甲賀は強大な大名がないため、特別におおきな城はなく、また地侍たちの性格もよく似ていたため、同じ大きさ同じ形の城がひしめきあっていた。地侍たちは互いに連携し、共同で地域を治めていた。 いずれも一辺 50m程の方形の土塁で囲まれ、空掘りを巡らせた土造りの城である。	滋賀県 甲賀市
②	神君伊賀越え 関連遺跡	県指定史跡 (1 小川城跡)	神君伊賀越えの際に、徳川家康一行が宿泊したと伝えられる多羅尾氏の居城。	滋賀県 甲賀市
		市指定史跡 (2 多羅尾 代官陣屋跡)	江戸時代を通じて代官を勤めていた多羅尾氏の役所跡で、石垣や庭園跡が残る。多羅尾家は家康の神君伊賀越えの際に、家康を護衛した功績により、その後、幕末まで代官に取り立てられた。	
③	みなくち 水口岡山城跡	国指定史跡	天正 13 年、羽柴秀吉の命で築城された山城で、この城の築城によって甲賀衆たちによる自治の時代は終焉を迎え、織豊期という新たな時代の幕開けとなった。	滋賀県 甲賀市
④	わだくぼう 和田公方屋敷跡	市指定史跡	甲賀の複雑な地形と勇猛な甲賀衆が守っていたこの地は、時の権力者の格好の潜伏地となった。 永禄 8 年、甲賀の和田惟政の手引きにより、奈良の一乗院を脱出した覚慶(室町幕府最後の将軍足利義昭)が一時滞在した場所である。	滋賀県 甲賀市

⑤	あぶらひ 油 日神社の文化財群	国指定重文 建造物 (1 楼門・ 回廊・本殿) 国指定史跡 (境内地：甲賀 郡中惣遺跡群)	油日神社は、甲賀衆たちが崇敬した甲賀の総社であり、聖徳太子を戦に勝つための軍神として崇めた。廻廊は、甲賀衆の合議の場で、本殿は多くの侍衆たちが力を合わせて寄進したものである。	滋賀県 甲賀市
		県選択 無形民俗 (2 油日 の奴 振)	油日神社に 5 年に一度奉納される行事で、豪華な衣装を身につけた奴が登場する。この行事は甲賀衆であったかつての上野の惣領が奴を伴って油日神社に社参するというもの。	
		市指定 (3 油日神の 懸 仏 群)	油日神社では聖徳太子を軍神と崇め、摩利支天などが信仰され、それらが懸仏として残っている。摩利支天は忍術秘伝書の中に、隠形の術として呪文とともに載せられ、忍者の守護神でもある。	
⑥	甲賀衆結束の鎮守の社	国登録文化財 建造物 (1 大鳥神社 楼門、拝殿、 中門、他)	大鳥神社は、この地の甲賀衆大原氏の氏神で、毎年 8 月 3 日に今も大原一族が氏神の前に集まり、大原同苗講が続けられている。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (2 矢川神社 楼門) 国指定史跡 (境内地：甲賀 郡中惣遺跡群)	元亀元年矢川神社の門前で、甲賀衆の自治組織である甲賀郡中惣によって、争いごとの解決が行われた。矢川神社は甲賀衆の合議の場であり、集会場でもあった。	滋賀県 甲賀市
		国指定重文 建造物 (3 新宮神社 表門)	新宮神社の表門は文明 17 年に建てられた茅葺の八脚門である。新宮神社は、自治組織である甲賀郡中惣の活動の実態が知れる最初の記録にその名がみえる。	滋賀県 甲賀市
		未指定 (4 柏木神社)	もとは若宮神社と称し、水口柏木地域の伊勢神宮荘園の総鎮守で、地域の甲賀衆から信仰を集めた。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (5 檜尾神社 本殿)	甲賀衆の一人、池田氏の氏神として信仰された神社で、宝永 3 年に再建された極彩色の社殿には、天正 8 年池田信輝による本殿再建の際の棟札が残る。	滋賀県 甲賀市

⑦	らくや 櫟野寺	国指定重文 県指定、 市指定 (彫刻)	櫟野寺は天台宗布教の拠点寺院で 仏像の宝庫であり、本尊木造十一面観 音坐像は重文坐像としては日本一の 大きさを誇る。	滋賀県 甲賀市
⑧	山伏の修練場	国指定重文 (飯道神社本殿) 市指定史跡 (1 飯道神社、 飯道山遺跡) 未指定 (2 岩尾山 息障寺 3 庚申山 広徳寺)	近江屈指の修験霊場である飯道山 には今も累々と石垣で囲まれた寺院 跡が残り、極彩色に彩られた飯道神社 本殿が建つ。岩尾山や庚申山など巨岩 が屹立した甲賀三山は山伏の行場であ るとともに、甲賀忍者の修練場と伝 わる。	滋賀県 甲賀市
⑨	忍 書 (ばんせんしゅうかい) (萬 川 集 海) (にんじゅつおうぎでん) (忍 術 應儀傳) (渡辺家忍者史料)	市指定書跡 (1 萬川集海) 未指定 (2 忍術應 儀傳) 未指定 (3 渡辺家史料)	伊賀・甲賀の国境を拠点とした藤林 保武が著した忍術秘伝書が萬川集海 であり、伊賀、甲賀流忍術が集大成さ れている。 忍術應儀傳は忍家望月家に伝えら れ、聖徳太子と忍術の由来を説き明か している。 渡辺家には江戸時代、尾張藩に仕え た甲賀忍びの史料が残り、甲賀忍者が 得意とした火術や兵法など甲賀忍者 の働きを知ることができる。	滋賀県 甲賀市
⑩	甲賀忍術博物館 建物群	未指定 (1 旧岡田家 2 旧望月家 3 旧藤林家)	旧岡田家は甲賀町隠岐から移築し た民家で、忍者の道具が展示され、旧 望月家座敷は、甲南町柑子から移築 し、中二階や隠し階段が施された医薬 に携わった家である。旧藤林家は、忍 術秘伝書「萬川集海」の編者の一族の 家屋で、からくり屋敷として公開され ている。	滋賀県 甲賀市
⑪	甲賀のくすり 関連資料	未指定	かつては山伏たちが、諸国に配札の 際に、土産として持ち歩いたのが甲賀 売薬の起源と伝わる。甲賀、伊賀流忍 術の中に、火薬の製法や薬に関する記 述が多いのも、山伏の薬草の技術、知 識が活かされたものであり、今日の配 置売薬の礎となった。	滋賀県 甲賀市
⑫	甲賀の前挽鋸 (まえびきのこ)	国指定 重要有形 民俗文化財	甲賀、伊賀は奈良時代より東大寺の 杣地として良材を産出し、近代には大 型の製材鋸、前挽鋸の産地となった。 甲賀、伊賀はこうした山林従事者が多 くおり、山野を相手にした生業が忍術 にも影響を与え、戸を開けるための 忍具にも様々な形状のノコギリが登 場する。	滋賀県 甲賀市

⑬	伊賀の中世城館群と 天正伊賀の乱激戦の城跡	県指定史跡 (1 福地城跡) 市指定史跡 (2 柏野城跡・ 3 竹島城跡・ 4 壬生野城跡) 未指定 (5 雨乞山 砦跡 6 百地砦跡)	戦国時代の地侍である、伊賀惣国一揆衆たちの城館跡である。中でも雨乞山砦跡などは、戦国の覇者織田信長が2度に渡り伊賀を攻めた天正伊賀の乱の際、伊賀者が徹底抗戦した城である。	三重県 伊賀市
⑭	上野城跡 (平楽寺跡)	国史跡	上野城跡は、かつては平楽寺という寺院であり、織田信長の侵攻時には伊賀衆の軍議が行われた場所で、今も多くの五輪塔や石仏などを見ることができる。	三重県 伊賀市
⑮	れいざん 霊山山頂遺跡	県指定史跡	山岳寺院跡。伊賀忍術は修験道に端を発し、孫子の兵法に武術の技術の理論を加え完成した山伏兵法が基とされる。斜面地には郭群が広がり、多くの人がここで修行していた。	三重県 伊賀市
⑯	てぢからじんじゃ 手力神社と 手力の花火	未指定	伊賀三大上忍の一人、藤林長門守一族の氏神。毎年10月17日には花火祭りが開催されるが、これは藤林一族が火術・火筒・狼煙といった火の忍術を得意としていたことに由来する。	三重県 伊賀市
⑰	徳永寺	未指定	寺内において葵紋の瓦などの使用が江戸期から認められており、本能寺の変の後、堺にいた徳川家康が本国三河に帰還する「神君伊賀越え」の際に家康が立ち寄った証である。	三重県 伊賀市
⑱	修験道の寺 松本院	未指定	忍者のイメージのひとつとなった修験道の寺であり、大峰山入峰修行など修験道の痕跡を今も色濃く残す。1616年に伊賀で唯一の祈願寺として建立された。	三重県 伊賀市

⑬	みぶの 壬生野地域の中世城館群 と春日神社	県指定文化財 (1 春日神社拝殿) (2 雨乞願解大馬附相撲板番付) 市指定文化財 (3 古文書) (4 獅子神楽) (5 伊賀国無足人帳) 未指定 (6 長屋座)	<p>今なお、土塁や堀が残る見事な中世城館が多く分布し、戦国時代の景観を色濃く残す。</p> <p>春日神社はそれら伊賀者を輩出した伊賀衆の氏神である。彼らは宮座を結成し、様々な祭礼行事を通じて結束を強めた。今も長屋座という座が残り、春祭りの獅子神楽が盛大に開催される。</p> <p>また藤堂藩制では伊賀衆は無足人と呼ばれた。「伊賀国無足人帳」は江戸時代の無足人 1,800 人余の名を記した文書であり、普通の生活をしながら、有事の際に武器を持った忍の痕跡がみられる。</p>	三重県 伊賀市
⑳	あえくに 敢国神社	未指定	<p>伊賀流忍術を開花させた服部氏一族が平安時代に「黒党(くろんど)祭」という私祭を主催していたといわれる伊賀国の一之宮である。</p>	三重県 伊賀市
㉑	伊賀流忍者博物館 (伊賀流忍者屋敷)	未指定	<p>1961 年に高山という場所にあった農家住宅を移築、改築したもの。</p>	三重県 伊賀市
㉒	しのび 忍 ちょう町	国登録文化財 (赤井家住宅)	<p>江戸時代藤堂藩の伊賀者の屋敷があり、藩内警備や情報収集に当たったとされ、赤井家住宅が当時の武家屋敷として残る。</p>	三重県 伊賀市
㉓	藤林長門守墓所	市指定文化財	<p>伊賀流忍者の大家であった藤林長門守一族の墓所で 25 基もの墓碑が並ぶ。</p>	三重県 伊賀市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 甲賀の中世城館群



甲賀郡中惣遺跡群（新宮支城）

② 神君伊賀越え関連遺跡



1.小川城跡



大原城跡



2.多羅尾代官陣屋跡



甲賀郡中惣遺跡群（寺前城・村雨城）

③ 水口岡山城跡



④ 和田公方屋敷跡



3.油日神社懸仏群

⑤ 油日神社の文化財群



1.油日神社楼門・廻廊

⑥ 甲賀衆結束の鎮守の社



1.大鳥神社楼門



2.油日の奴振



2.矢川神社楼門



3.新宮神社表門



4.柏木神社



5.檜尾神社本殿

⑦ 櫟野寺



本尊木造十一面観音坐像

⑧ 山伏の修練場



飯道神社本殿



史跡飯道神社、飯道山遺跡



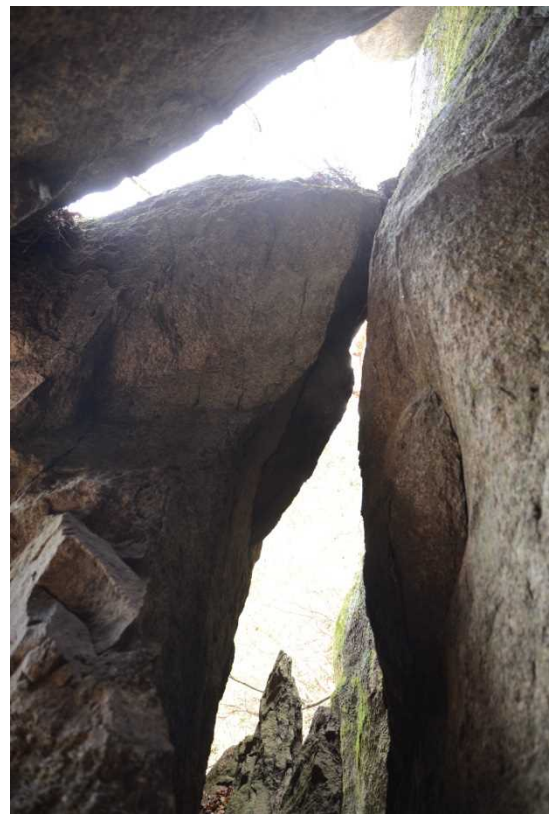
岩尾山息障寺



飯道山での護摩修行



庚申山広徳寺

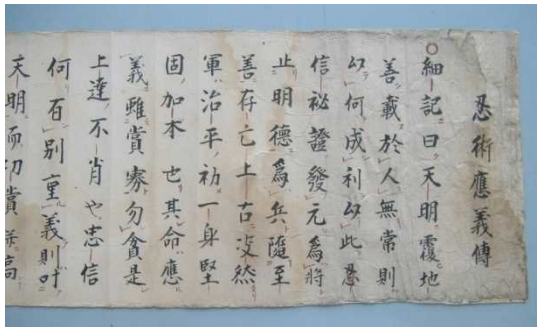


山伏の行場（飯道山）

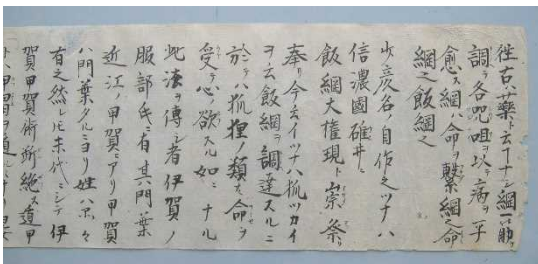
⑨ 忍 書



萬川集海



忍術應義傳



渡辺家忍者史料

⑩ 甲賀忍術博物館建物群



甲賀忍術博物館



旧岡田家



旧藤林家

⑪ 甲賀のくすり関連資料



薬研



行李

⑫ 甲賀の前挽鋸



前挽鋸



近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品

⑬ 伊賀の中世城館群と

天正伊賀の乱激戦の城跡



柏野城跡



竹島城跡



壬生野城跡

⑭ 上野城跡（平楽寺跡）



⑮ 霊山山頂遺跡



手力神社

⑯ 手力神社と手力の花火



⑰ 徳永寺



⑱ 修験の寺 松本院



⑳ 敢国神社



㉑ 壬生野地域の中世城館群と春日神社



春日神社

㉒ 伊賀流忍者博物館



壬生野の中世城館群

㉓ 忍町



② 藤林長門守墓所

